

平成23年度 総会と研究発表会を開催

4月11日、別府市のニューライブラザで今年度の総会を開催しました。活動計画、予算等の審議を行ってNPO 法人猪の瀬戸湿原保全の会の1年目がスタートしました。役員は設立総会で選出された川野弘人理事長、生野喜和人副理事長、小田毅理事、熊瀬良治監事、渡辺政治監事が留任し、事務スタッフも渡辺新十郎、井上千鳥、児玉清一郎、波多野英哲、工藤剛の5名が協力してくれることになりました。また、セントレジャー城島から大野正憲副部長の出席をいただきました。総会の後、中村茂会員が野鳥調査の結果を、小田毅会員が実験区内の植生の変化をパワーポイントを使って報告しました。猪の瀬戸湿原では留鳥（系）の野鳥が多く、湿原周辺部で多くの種が観察されること、植生ではヨシ湿原、オギ湿原、ツルヨシ湿原ともに火入れが湿原植物の生育に概ね良好であること、森林化の防止策になっていることなどが話されました。

サクラソウ保護柵用竹切り作業と柵の設置活動

サクラソウの保護柵支柱に使用する竹をセントレジャー城島さんから提供してもらえることになったので、4月14日の午後、川野、児玉、小田、熊瀬、首藤宏史、後藤利雄、渡辺新十郎、波多野、井上千鳥、津崎、定松の11名が集まり、城島園内の竹林でマダケの切り出し作業をしました。

竹林のタケを約2mの長さに切り、先端を尖らせた支柱を180本作って5本ずつ束ね、猪の瀬戸湿原まで運び出して、後日のロープ張り作業に備えました。

ロープ張りは4月23日（土）に行き、川野、児玉、小田、工藤、今田、藤内、井上千鳥、井上理、波多野、鬼塚、内野、河室、安東、首藤宏史、後藤利雄、熊瀬、渡辺新十郎、定松の18名が参加して行いました。

今年は、2回目とあって手際よく作業が進み、保護柵は午前中に設置することができました。

午後からは、防火帯外側の観察道の整備作業も行いました。少しずつですが自然に親しむことができる猪の瀬戸湿原になりつつあります。この日の保護活動は大分合同新聞社が取材し、後日記事になりました。



保護柵支柱用タケ切り出し作業



サクラソウ保護のロープ張り作業



今年も守られたサクラソウ